

# 鉄研旅行 春中九州

中三 西山大輝

## ■序章 ～はじめに～

こんにちは。停車場執筆 2 回目の西山です。今回は今年の春に実施された春の鉄研旅行の旅行記を綴ります。この旅行は部員達に九州を存分に満喫してもらおうと九州での滞在時間、自由時間を長くしました。しかしやはり旅行に事件はつきもので・・・この話は本編をじっくり読んでいただきたいと思います。その前に、まずはこの旅行に出発する日の夜までの前日譚を用意しました。それではお楽しみください。

## ■第 1 章 ～前日譚～

### 1. 鉄道車両の里帰り

この日は 2013 年の 3 月 28 日。あと 3 日で私が中学 3 年になる日であり、鉄研旅行の出発日でもある。この旅行は私が発案したもので、九州方面に行く旅行である。人生で 1 度しか九州に行ったことが無い私はこの日を楽しみにしていた。出発日の前日、鉄道仲間の友人からある情報が入り込んできた。それは「仙台地区で活躍した後秋田地区に転属し、そこで活躍していた 701 系という電車が仙台へ関東を通して里帰りする。」というものだ。一緒に秋田から仙台へ回送される時の時刻も送られてきた。その情報によると、先頭に電気機関車の EF81-95、荷物車のマヤ 50 が付くらしい。

当日、その列車が走るのには昼時というちょうど良い時間だったので、近所の東十条へ行って待ち構えることにした。私が着く前から十数名の撮影者がいたが、なんとか自分の撮影場所を確保。そして 10 分程後、遠くから目的の列車が来て、シャッターを切った。

このあとこの列車が田端駅の近くにある田端操車場で停まっている間に北千住へ先回りして、そこで再び待ち構えることにした。ここでもちゃんと写真に収めることが成功。東北で走っている車両を関東で撮れたので、これとない嬉しさだった。



EF81 95+マヤ 50  
+701 系@東十条



後ろ側の 701 系@東十条



EF81 95+マヤ 50  
+701 系@北千住

### 2. 鉄道車両の次の人生

実は、この日はもう一つ回送列車が走る。千葉地区で活躍していた 211 系という電車が長野に行くというものだ。209 系が投入されたことで余剰になったこの車両は、長野地区を走っている 115 系を置き換えるので、そのための転属回送である。

北千住から常磐線と武蔵野線で新座に向かった。ここは武蔵野線の中でも有名な撮影地なので 30 人程いて結構混雑していたが、早めに着いた私はちゃんと場所を確保できた。ここでも上手く撮影できた。長野での活躍を期待したい。



EF64 1032 +211 系



後ろ側の 211 系

### 3. ここからが本題

撮影が終わった後、鉄研旅行の集合時間まで時間があるので、一度家に帰って荷物の確認をして出発の時を待った。鉄研旅行は東京駅の 9・10 番線ホームの熱海寄り先頭に 22 時 45 分集合だが、旅行中に読む買いたい本があるので、本屋が閉まる 21 時に間に合うように早めに家を出ることにした。東京駅に向かう途中で大手町の丸善丸の内本店に寄る。その目的の本は最後の 1 冊だった。運がよく幸先のいいスタートだ。

そして、集合場所の東京駅 9・10 番線ホームへ——。



3/28 (木) → 3/29 (金)

東京 23:10 発～(快速 ムーンライトながら 大垣行) ～大垣 5:53 着

#### 1. 鉄研旅行恒例の夜行列車

集合場所の東京駅 9・10 番線ホームに到着した。だが、部員が誰一人としていない。かなり早く来てしまったようだ。仕方ないのでさっき買った本をホームのベンチで読みつつ他の部員を待つ。やがてちらほら部員が集まってきたのち集合時間の 22 時 45 分、全員集まっ・・・てはいなかった。どうやら当時から 3 の先輩 2 人がインフルエンザで参加できなくなってしまったらしい。気の毒である。

しばらくして 10 番線に鉄研旅行 1 本目の列車、「快速 ムーンライトながら」が入線してきた。この列車は東京～大垣間を走る臨時の夜行列車で、田町車両センター所属の 183・189 系 10 両編成が使われる。満席になることが多々あり、切符が 1 分で売り切れることもあるほどだ。また種別が快速なので、青春 18 きっぷに指定席券の 510 円を追加す

るだけで乗ることができる。安価に移動できることから、これが連日満席になるほどの人気の理由だろう。今回の旅行はその青春 18 きっぷを使う。青春 18 きっぷとは、1 日(人)あたり 2300 円で 5 日間(人分)JR の普通列車、快速列車が乗り放題になる切符だ。ドアが開くと乗客たちはぞろぞろと乗車していった。私も順番に車内に入って自分の座席を探して着席する。そして 23 時 10 分、列車は東京を定刻に発車した。



快速 ムーンライトながら 大垣行

## 2. 眠気と戦う必要なんてない。

青春 18 きっぷは 29 日から使用する。そのため日付が変わって最初に停車する小田原までの切符は別に買って、検札のときは小田原までの乗車券、青春 18 きっぷ、指定席券を見せなくてはならない。

周りにいる同級生はゲームをして遊んでいるようだが、中 1 の頃 DS を売って鉄道模型の資金にした私にはあまり縁が無いので、自分の iPhone で音楽を聞いたり先輩たちと駄弁ったりしながら過ごす。やがて小田原を通過したあたりで寝落とし、気付いたらそこは浜松だった。ここでは 26 分間停車する。周りは元気に起きているのだが、寝ておかないと後が体力的にきつくなるぞ、と思いつつ(あまり人のことを言えないが)、車外へ出てとりあえず階段を下る。改札を出てみたが、やることはほとんどなさそうだ。改札内に入って近くにあった自動販売機で抹茶アイス入り最中を買った。余談だが最近寒い所でアイスを食べるのが好きになったのだが、私が一番好きなのはハーゲンダッツのラムレーズンである。ホームに戻って部員達と立ち話をしていたら発車時刻が近づいてきたので車内へと戻る。そして 3 時 11 分、再び大垣へ動き始めた。

### 3/29 (金)

大垣 5:58 発～(普通 東海道本線 網干行)～ 米原 6:31 着

↓ここから自由行動↓

米原 6:36 発～(新快速 東海道本線 姫路行)～ 京都 7:36 着

京都 8:09 発～(区間快速 奈良線 奈良行)～ 木津 9:01 着

木津 9:25 発～(普通 学研都市線 塚口行)～ 尼崎 10:40 着

## 3. 大垣ダッシュ

大垣に到着するのは 5 時 53 分だが、起きるときが一番辛いのは私だけではないだろう。うめき声を上げながら起きたのは「あと 10 分ほどで終点大垣です。」という車掌の案内放送が流れたときだった。あまり荷物を広げていなかったのが素早く身支度を整えた。

そして列車はほぼ定刻通りに大垣に到着した。ここから東海道線の普通 網干(兵庫県)行き 4 両に乗るのだが、ムーンライトながらに乗ってきた人の大半はここでこの網干行に乗り換えるので、4 両しかないこの列車は毎回混雑する。大垣から米原まで 30 分程だ

けだが、眠い人が多いのか駅コンコースで繰り広げられる席取り合戦、巷ではこれを「大垣ダッシュ」と呼び、いつもこのマラソン大会が起こる。自分が乗っていた車両は階段より遠い所だったので歩いて乗り換える。もちろん座れなかったが、米原からは座れるだろうとここは我慢。

6時31分に米原に到着すると、ここからは大阪市交通局のフェリーターミナル駅まで今回の鉄研旅行最初の自由行動である。同じ中二の自分含めて5人で行動する。

ここから乗る新快速は12両なので悠々と座ることが出来た。一路京都へと向かう。



東海道本線 新快速(別日撮影)

#### 4. 奈良線ですが、奈良には行かないので。

私は休みの日は午前11時に起きるくらいに朝に弱い。だから京都までは爆睡した。京都に着いてまず初めに思ったことは腹が減ったということ。京都ではゆとりをもって店に入って食うことができる時間が無いため、京都の駅弁屋で駅弁を購入。眠気のせい、何を買ったか良く覚えてないが・・・

ホームへ行くと乗る列車がホームに入線していたので、5人がまとまって座れる所で座り、弁当を開いて朝ごはんの時間にした。やがて数分後列車は出発。この奈良線で京都府の木津まで行ってから、学研都市線で尼崎へ行く。小さい頃にしか奈良に行ったことがない私は、是非奈良に行ってみたい。中三の修学旅行で奈良に行くので楽しみだ。

友達のゲームを借りて遊ぶこと1時間弱、列車は木津に到着した。次の電車まで多少時間があるので駅の外に出てみたが、特にやることも無く、学研都市線のホームの待合所へ行く。この「学研都市線」という名は「片町線」の愛称なのであるのだが、個人的に「学研都市線」の方がしっくりくるので、こっちを使わせていただきたいと思う。

#### 5. 圧倒的な王将の定番

待合室で友達と駄弁っていたら、ここから乗る207系が入線してきた。この列車はここで折り返す列車なので駅に着いたらぞろぞろ乗客が降りてきたが、乗った時はガラガラだった。ここからこの学研都市線を使って尼崎へ行き、そこで昼食を取るつもりだ。ここで再び眠気が私を襲ってきたので完全に寝ていた。起きたら京橋辺りだった。

ところでこの京橋もそうだが、東京と大阪を比べて、名前が似ている地名が多いような気がする。考えてすぐに思いつくものは少ないが、たとえば日本橋(東京と大阪では呼びかたが違うが)などがあるだろう。そんなことを考えながら混雑してきた車内を眺めつつ携帯を弄って時間を潰していたら、尼崎に着いた。ここで昼食をとることにしていたので改札を出て探してみると、駅近くに餃子の王将を見つけたのでその店に入った。中二5人が店の中へズカズカ入って来たので、店員さんは少し驚いた表情をしていたが、たまたま空いていた5人まとまって座れる席へ案内してくれた。それぞれラーメンや炒飯を注文し、私もラーメンを注文した。それに加えて、餃子5人分も注文。しばらく経って出てきた餃子が大皿に5人分まとめて出されたから圧巻だった。



	
普通 学研都市線 塚口行(写真は折返し前)	王将の餃子

3/29 (金)

尼崎 12:23 発～(新快速 東海道本線 近江塩津行)～大阪 12:28 着

大阪 13:08 発～(関空・紀州路快速 大阪環状線 関西空港・和歌山行)～弁天町 13:15 着

弁天町 14:33 発～(普通 大阪市営中央線 コスモスクエア行)～コスモスクエア 14:42 着

コスモスクエア 14:44 発～(普通 大阪市営ニュートラム 住之江公園行)～フェリーターミナル 14:55 着

↑ここまで自由行動↑

## 6. 関東で例えるなら、地下鉄博物館みたいな

尼崎で昼食を済ました後、我ら一行は東海道本線で大阪へ向かった。ここからは弁天町にある「交通科学博物館」に行き、散策したのちそこから地下鉄を乗り継いで集合場所であるフェリーターミナル駅に向かう予定だ。

大阪に着くと、余っている時間を使って近くのカフェでドーナツを購入することにした。クリスピードーナツを買う選択肢もあったが、カフェにはまっていた私は迷わずカフェへ入る。今となってはカフェポイントカードのサービスが終了してしまうことに不満を持っているこの頃である。大阪から阪和線直通の関空・紀州路快速の列車に乗って弁天町へ。ここでは前述の通り、交通科学博物館に散策しに行く。正直、思ったより小さい所ではあったが、それなりに楽しめる所であった。鉄道運転シミュレーターで停止位置にピッタリに止めることが出来たときは嬉しかった。そして皆と館内のいろいろな所を回って、集合場所へと向かうべく大阪市営地下鉄に乗った。



阪和線 関空・紀州路快速(別日撮影)

## 7. そうだ、九州へ行こう。

弁天町から中央線に乗ってコスモスクエアに到着した。次は東京で言うところの「ゆりかもめ」にあたる、つまり線路が無く、無人で、タイヤで走行する大阪市営の「ニュートラム」に乗ってフェリーターミナルへ行く。ホームに行くところゆりかもめと同じく、ホームドアが付いていた。列車が来たのは私達がホームに来た時とほぼ同時だった。この列車はコスモスクエア折返しなので、車内に入ると私たち以外誰もいなかった。先頭車両の先頭方に乗る・・・というのはゆりかもめでも同じことだ(もう中3ですけど、先頭

に乗りたくなるものです）。

出発からしばらくすると地上に上がった。列車は大阪湾沿いを走っていく。この辺一帯は工場と高速道路がよく目立つ。10分程でフェリーターミナルに到着する。このフェリーターミナル駅は文字通り大阪南港フェリーターミナル(以下大阪南FT)の最寄り駅となっている駅である。集合場所の大阪南FTの待ち合わせ場所に行ったが、まだ他の部員は私達以外誰もいなかった。早過ぎたか。が、しばらく携帯を弄っていると、顧問の松崎先生と当時中1の御一行が到着。そしてどんどん到着してきて、集合時間の15時35分には全員集合した。

ここからは名門大洋フェリーに乗船して九州へと向かう。2012年度の春の鉄研旅行のときに初めて長距離フェリーに乗船して、そのときフェリーの楽しさ、旅行の満喫感みたいなものを感じて、この旅行にフェリーを取り入れてみることにした。乗船区間はここ大阪南FTから新門司港フェリーターミナル(以下新門司FT)までで、乗船時間は約12時間40分である。パッと見たとき「すげーなげえ」とか「耐えられんのか?」とか「頭おかしいんじゃないn(以下略)」とか思った人もいるだろうが、フェリーの12時間は結構短く感じるものだ。集合してから数分後、顧問の先生から乗船券を受け取り、「乗船券を船の中で無くしたら下船出来ないから、無くすとかマジでやめてくれよ」などの注意をいくつか仰ぎ、いざ乗船。

		
大阪市営中央線	運転手のいない ニュートラムの先頭部分	名門大洋フェリー フェリーおおさか



3/29(金)→3/30

大阪南港FT 16:50 発

～(名門大洋フェリー フェリーおおさか 新門司港FT行)～新門司港FT 5:30 着

#### 1. 鉄研旅行中束の間の贅沢

今回乗船する名門大洋フェリーは、大阪市西区に本社を置く海運会社である。社名にある「名門」は由緒ある門地や門閥という一般的な意味ではなく、母体企業の一つが「名門カーフェリー」の社名で名古屋と門司(福岡県)結ぶ航路を開設していたことに由

来する、とのこと。航路は大阪南港 FT～新門司港 FT で上下各二便。第一便には「フェリーおおさか」「フェリーきたきゅうしゅう」が就航。第二便には「フェリーきょうと2」「フェリーふくおか2」が就航している。また4日目から5日目にかけて乗る、名門大洋フェリーとほぼ並行する航路を持つ阪九フェリーと就航以来激しい競争を続けている。（この阪急フェリーについての説明は後述参照。）

今回乗船するのは「フェリーおおさか」という船舶だ。1991年5月竣工、1992年1月22日就航した。また2002年改造、という歴史もある。旅客定員は814名、9479総トン、全長160m、幅25m、出力27000馬力、航海速力22.9ノット(最大25.9ノット)である。9千トンなんて想像がつかない。でもこの世にはもっと重いものがあるから、到底想像できない。調べて思ったが、(大きさにもよると思うが)船舶は完成まで1年もかからないことにも驚いた。

今回使用する部屋は二等洋室、2段のベッドが一部屋ごとに3組ずつ、つまり定員6人の部屋である。いつもは二等(広いスペースに折り畳み式の布団と枕がある部屋)を使う鉄研旅行では珍しい。

部屋は各自で適当に振り分け、自分の部屋は同じ中2が3人、中3が2人になった。買ってきたミスをパクパク皆と食べている最中に船は出港、九州へと向かう。

簡単な服(可愛い可愛い「ゆるゆり」というアニメのキャラがプリントされているTシャツ!)に着替え、船を探索したり、先輩や同級生達と駄弁ったりした。痛い目など全く気にしない。気付けばもう夕飯の時間。この船の夕飯はバイキングになっているので、船内の食堂へ移動。先に中1の後輩たちが来ていた。皿に盛って、テーブルへ。おいしい夕飯だ。いただきます。全体的に美味しかったが、麻婆豆腐の辛さには舌が痺れた。

そしてこの夕飯が後に不幸を呼びよせるなんて当時は思いもしなかった――。

	
船中の夕飯	部屋の前に垂れ下がっているウェルカム的な何か

## 2. フェリーならではの特権

夜も深まってきたところで、そろそろ風呂に入ることにした。このフェリーの風呂は銭湯みたいに大浴場があるので、そこへ着替えとタオル諸々を持って行った。「一日ぶりのお風呂だー」と思いながらいざ来てみたら、更衣室が狭い!どのくらい狭いかというと、私物入れの分だけの人数が更衣室にいたら、着替えるのに結構支障をきたすレベル。しょうがなく着替えていると入浴を終えた数名が外へ出て行ったため、少しは楽になった。大浴場の中は、丁度自分が入ったときは人の混み具合が谷の所だったため、少しはほっとした。大浴場はそれほど窮屈には感じなかった。

頭、体を洗い、湯船へ。あ〜疲れが取れる〜。やっぱり日常生活でお風呂は欠かせない。これほど気持ちいいものはそれほどないであろう。ちなみに大浴場に窓が付いていたのだが、外が暗い上に曇っていたため、外が見えなかった。風呂を上がり、服を着て部屋へ。まだ寝るには早いし、何かして時間を過ごすでしょう。

3/30 (土)

新門司港 FT 5:40 着～(名門大洋フェリー送迎バス)～門司駅大里赤煉瓦駅口 6:00 着

↓ここから自由行動↓

門司 6:16～(普通 鹿児島本線 羽犬塚行)～小倉 6:21

小倉 6:35～(快速 鹿児島本線 博多行)～博多 7:43

博多 8:43～(普通 鹿児島本線 鳥栖行)～竹下 8:46

竹下 9:12～(普通 鹿児島本線 福岡行)～博多 9:15

博多 10:18～(特急 ゆふいんの森3号 別府行)～別府 13:26

### 3. 九州上陸

おはようございます。現在は朝の5時前。昨夜は船中をぶらぶらしたり、小学校の頃の友達とメールをしたりした後、日を超す前に就寝した。着岸するまであんまり時間は無いので、身支度を整えて下船開始を待つ。

ほぼ定時に着岸した旨を伝えるアナウンスが流れ、フェリーのエントランスに行き、そこで待つこと数分。ドアが開いて、フェリーターミナルへと続く道が開いた。そこを歩いて、遂に九州上陸！やったーやったー、と思っているわけだが、次に乗る送迎バスまではあまり時間がない。そのままバス停へ行き、そこに着いた頃にはもうバスは着いていた。どうやら我が鉄研用に一台バスを用意してくれたそうだ。このバスは前に一つドアがあり、2列+2列のシートが先頭から奥まで続いていた。5時40分頃にバスは出発し、門司駅へと目指す。前述のように、朝に酷く弱い私はバスの中で爆睡。起きたときは門司駅前であった。そしてほぼ6時ジャストに門司駅に到着。ここ門司は、北海道の玄関口が函館であるように、九州の玄関口にあたる場所である。門司駅には鹿児島本線と日豊本線が乗り入れている。ここからは上記の通りに、自由行動になる。

九州最初に乗る電車は鹿児島本線の普通 羽犬塚(福岡県)行だ。ホームに降り、待つこと数分で羽犬塚行がきた。車両は813系の3両+3両の6両編成だ。これに乗って小倉に行き、そこで快速に乗り換えて博多に出る。そして6時16分、我々はさらに西へと向かう。



鹿児島本線 普通 羽犬塚行

### 4. ご当地ラーメン

羽犬塚行に乗って小倉に着いた。門司にいたころはまだ空は薄暗かったが、だんだんと明るくなっていった。ここからは快速に乗り換えて博多に行く。待つこと10分程で次に乗る快速が入線してきた。この電車も先程と同じ813系である。ボックス席の一角を確保して小倉を出発。博多に近づくにつれて車内は混雑していった。

博多に到着すると、この列車は博多止まりであるため、乗車していた乗客はぞろぞろと降りて行った。もちろん私たちもホームに降りる。そろそろ朝ご飯を食べなければなら



ないのだが、何を食べようかと皆で話していると列車から降りたホームの上に名物博多ラーメンの店があった。こんな時間から開いているのか……。朝からラーメンは流石にきついが、博多に寄れるのはこの時しかない。わざわざここまで来て博多ラーメンを食べないのももったいないので、その店に入ることにした。店内はそれほど広くない、というよりは狭い。博多ラーメンに卵をトッピングとして注文することにした。注文してしばらくすると通勤中と思われる人たちが3人ほど入ってきた。なるほど、このあたりは朝からラーメンたべても平気なのだろう(違うだろうが)。

しばらくすると注文したラーメンが出てきた。お、見た目あっさりしている。ではいただきます。あ、いい感じにあっさりしている。これは朝食べても問題無いな。



博多ラーメン

## 5. 鉄分補給

朝食を済ませて店を出た。次に乗る列車は「特急ゆふいの森」3号であるのだが、出発までまだ時間がある。そこで隣の竹下駅へ移動してそこで撮影することにした。

隣の駅なので列車に乗ってしまえばすぐに着く。竹下に到着し、駅の先頭でカメラを構える。因みに愛用カメラはCanonのEOS 60D。レンズは250mmを使っている。九州の鉄道を撮るのはやはり新鮮で、しばらく夢中になって撮っていたらそろそろ同じ列車しか来なくなったので博多に戻ることにした。

博多に戻って写真を撮ったり飲み物を買ったりしていると、そろそろ次の列車の時間が近づいてきたので、発車ホームに行くことにした。



福北ゆたか線



特急ハウステンボス



鹿児島本線





特急有明

## 6. リゾート感溢れる列車

10 時 10 分頃、ホームにゆふいんの森が入線してきた。ゆふいんの森は、九州旅客鉄道（JR 九州）が博多駅 - 大分駅・別府駅間を鹿児島本線・久大本線・日豊本線経由で運転する特急列車である。この列車はありがたい特急型車両とは異なり、車内は木調で、ビュッフェやサロンスペースがある豪華列車の一つなのだ。九州にはこういう一味変わった車両があるから面白い。

そして列車は定刻に博多を出発した。気動車なので良い感じの揺れとふかふかの席が眠気を誘って、最終的には意識を誘拐された。そういえば小学校の頃に乗った時も寝てしまったような。起きたのは久留米を出発する辺りだった。とりあえず車内を探索してみる。車内の写真が無くて申し訳ないが、やはり何度乗っても飽きない列車である。ビュッフェでコーヒーを一杯頼んで一服。うん、このサロンの椅子は窓と平行になっていて車窓がより一層綺麗に見える。

列車はどんどん内陸部へ進み、「湯布院の森」を抜けて湯布院に到着する。この駅のホーム上には足湯がある。今回は素通りし、九州を西から東へ突っ切って大分へと列車は向かう。ここから列車は日豊本線に入り別府に行く。そして 13 時 26 分、別府に到着した。ぜひとも毎日の通学の時に使いたい列車だった。

	
特急 ゆふいんの森 3 号 別府行	ゆふいんの森で販売されているコーヒー

3/30 (土)

別府 14:30～(普通 日豊本線 佐伯行)～佐伯 16:20

佐伯 17:14～(普通 日豊本線 南延岡行)～延岡 18:39

延岡 18:47～(普通 日豊本線 南宮崎行)～宮崎 20:37

↑ここまで自由行動↑

## 7. とある乗換時の最適回答

さて遅めの昼食を取るとしよう。別府駅一階にあるフードコートで飯を食べることにし、僕はラーメンを注文した。「またかこの野郎」と思うかもしれないが、過去は変えられないのでご了承を。飯を済ませたら、ここからは忍耐力との勝負だ。ずっと鈍行で、つまり普通列車で南へ、さらに南へと向かっていく。だがそんなことを言っていたら鉄研部員として務まらない(個人差がありますが)ので、めげずに立ち向かう。心折れていましたけど。

ホームへ上がった時にはもう列車が来ていた。と、ここで不幸の神が降りてきた。なんと全ての座席が埋まっている。これは死んだ。本当にこれだけはしょうがないので先頭部分で立って全面展望を楽しむことにした。どこだか忘れたが、途中で席が空いたのでそこに着席、足を休める。音楽を聴きながら携帯を弄っていたら、この列車の終点の佐伯が近づいていた。ちなみにこの頃よく聞いていた曲は三澤紗千香さんのミニアルバム「ポラリス」の中にある「Brand New Blight Step」や「アタリマエの距離」、「グロ

ーリア」などである。今でもこの曲を聴くと九州での思い出が頭をよぎる。いい曲なので、ぜひ検索するのをオススメする。それはさておき、佐伯に到着したところでここで問題です。特に何もない駅で乗り換え時間が 1 時間弱あります。この時、最も効果的な時間の過ごし方を 100 字以内で自分の言葉を使って書きなさい。模範解答は「自動販売機でアイスクリームを購入し、待合室に行き、溶けないうち食べ、発車 15 分前までその場でゲームなどを用いて時間を駆逐する。発車 15 分前になったらホームに行き、車内に入り、確実に席を確保する。」(96 文字)という結論を出した私は自動販売機でアイスクリームを購入し、待合室に行き、溶けないうち食べ、発車 15 分前までその場でゲームなどを用いて時間を駆逐して、発車 15 分前になったらホームに行き、車内に入り、確実に席を確保した。どうも日本語として落ち着いた表現ですが、私の国語力なんてこんなものだ。(トホホ…



普通 鹿児島本線 佐伯行

#### 8. 宗太郎

列車は佐伯を出発した。ここからは今年の甲子園で惜しくも準優勝だった延岡学園のある延岡に行き、乗り換えて他の部員と合流する宮崎へと向かう。

この日豊本線には宗太郎駅という、いわゆる秘境駅がある。もちろん無人駅で一日の乗降客数は 0.22 人、この駅に停車する列車は 1 日 3 往復のみという凄い駅なのである。列車は宗太郎駅に着いた。ここでは特急列車との入れ違いのため 10 分停まる。というかすごい山奥にある駅だなおい！と思っていると一人の老人が鉄研部員に対して意味不明ないちゃもんをつけている。どうやら私たちが宗太郎駅と列車を撮っているのが気に食わなくて八つ当たりしてきているようだ。僕自身は特に何も言われなかったが、なんと理不尽な。「これだから最近の若者は」とよく聞くが、この人に対して「これだから最近の老人は」と言ってやりたい…と考えていたらふと思った。この老人、宗太郎から乗ってきたよな…?ということは…この人は数少ない駅の利用者だと…!!色々すごい体験をした気分だ。



普通 鹿児島本線 南延岡行



宗太郎を通過する特急にちりん





## 9. 幸福な鉄道

延岡に到着すると、次乗る電車はここまで乗ってきた電車と接続しているので、ホームに次乗る列車がもういた。ここからは 817 系に乗る。この電車はこの地区では新しい電車で、座席や手すりの特異な形をしている。この列車をデザインしたのは工業デザイナーの水戸岡鋭治さんで、この人は「SL 人吉や指宿の玉手箱」号、「あそぼーい!」号、800 系新幹線などなど、いろいろな車両のデザインを手掛けた。

列車は夜の宮崎県をさらに南へ行く。しかし、そろそろ身体的に限界が近づいてきた。ずっと鈍行に乗っていたから尻が痛くなる。そこをなんとか乗り越えて宮崎に着いた。ホームを下るとそこにはもういくつかのグループが着いていた。20 時 45 分の集合時間には全員揃ったので、全員で駅前の東横インに移動。チェックインをして鍵を貰い部屋に入る。二人で 1 つの部屋を使うのだが、それなりの広さはあって窮屈ではない。

荷物を部屋に置いて、駅中にあるローソンで晚饭、ミスドでドーナツを買って、先輩の部屋にみんなで集まってミスドを食べながら、その日地上波で「SP 革命編」をやっていたので、みんなで鑑賞した後、シャワーを浴びてその日は就寝。おやすみなさい…

	
普通 鹿児島本線 西都城行 延岡→宮崎で乗ったのと同じです。	817 系の車内





3/31 (日)

↓ここから自由行動↓

宮崎 8:47～(普通 日豊本線 西都城行)～都城 9:57  
都城 10:18～(普通 吉都線 隼人行)～吉松 11:46  
吉松 11:49～(普通 しんぺい2号 人吉行)～人吉 13:03  
人吉 14:38～(快速 SL人吉 熊本行)～熊本 17:13  
熊本 17:31～(新幹線 さくら568号 新大阪行)～小倉 18:26

↑ここまで自由行動↑

## 1. 悪夢の始まり

おはようございます。現在は8時15分。集合は8時40分。正直に言おう、寝坊だ。朝ご飯を食べている時間なんてない。なんという失態。もっと早めに寝ておけばよかった。などと思いながら服を着て、身支度をし、8時30分にチェックアウト。おにぎりを買って、集合場所の駅に着いたのは8時40分頃。間に合ったが何だか気持ち悪い。別に寝不足ではないっていうのは自分でも分かる。乗り物酔いは生まれて一度もないが、乗り物酔いしたような感じだ。気分が優れぬまま今日最初の列車へ昨日最後に乗った列車と同じ817系(写真前ページ)だ。

宮崎を出発し、南へ向かっていく(約3回目)。少し気持ちが悪かったので眠ていたら、都城の手前で友人に起こしてもらった。何だかどンドン気持ちが悪くなっているような…。吉都線のホームに移動したらもう次に乗る列車が来ていた。気動車のキハ147形である。20分程で都城を出発。ここからどンドン山の中へ入って行って、吉松に出る。





普通 吉都線 隼人行

## 2. 豪華を味わえなかった「普通列車」

吉松から乗る列車は、3分乗り換えと極端に短く、その上人気な列車なので指定席券を取っておいた。予想通り、立っている客もいて満席だった。指定された場所に座る。因みにまだ気分は晴れていない。

その次に乗る列車は普通「しんぺい」2号である。この車両も水戸岡鋭治さんがデザインした車両だ。普通列車なのに客室は温もりのある木製のインテリアが特徴で、展望スペースが設けられている妻はたまらない。またこの列車は真幸、大畑でスイッチバックをし、矢岳～大畑間はループ線になっている。

吉松を出発して10分ほどで真幸に到着した。ここでは5分止まるので、ホームに降りて写真撮影。あうー…気持ち悪い…。真幸を出発し矢岳に着いた。ここでも5分停車する。いくらかの趣がある矢岳駅舎を数枚撮影して列車に戻った。さらにその次の大畑では3分停車する。駅舎と反対側に綺麗な桜が咲いていて花見客もいた。そこでしんぺい号と桜を一緒に交えて写真を撮った。その写真が前ページの「第4章」の写真である。

	
普通 しんぺい 2 号 人吉行	矢岳駅

### 3. 幸福にすることが出来た「快速(SL)列車」

気持ちが悪いところに列車独特の揺れはきつい…。そんな気分のまま人吉に着いた。しかし遂にここで体の限界が来た。私は到着したら速攻でトイレに駆け込み、あまり申し上げたくないが嘔吐した。ついでに吐血。「きたねえこと書くんじゃねえよ」と思われても仕方がないが、これは個人の旅行ではなく鉄研という団体での旅行。あったことはできるだけ書くようにしているので、ご了承申し上げたい。ですが、この話はできたら笑って済ましていただけると幸いですね。なんせ黒歴史なので…。

ともあれ気分は晴れた。僕がこうしている間に、友達に昼食をコンビニで買ってきてもらった。仲間の存在は心強い。そんなこんなで次の「SL 人吉」号が入線してきた。この列車もまた水戸岡鋭治さんがデザインした列車で、車内は展望ラウンジ、ビュッフェ、ミニ図書館スペース(S L 文庫)があり、座席も革製と布製の 2 種類がある。ぜひともお勧めしたい列車の一つ。車内は下の写真を参照したい。

SL が出発した後はビュッフェで冷たいお茶を買った。うめえ。身に染みるう。しかしなんと豪華な列車なんだ！もう私この列車で一生活ごせますよ！

		
S L 文庫	展望ラウンジ	客室

		
ビュッフェ	快速 S L 人吉 熊本行	客車側

### 4. 新幹線なんかに乗るから値段が張っちゃうんだよ

SL は熊本に到着した。素敵な時間をくれた、ぜひともまた乗ってみたい列車だった。ところで九州といえば寝台特急の「ななつ星 in 九州」も今とても HOT な鉄道の話だ。私もいつか——!!

自販機でいろはすを買って新幹線ホームへと向かう。ここから新幹線さくら号で小倉へ出て、そこで再び皆と合流する。写真が無くて申し訳ないが、乗車した列車は淡い青のN700系だった。

早めに並んでおかないと席に座れない可能性があるので、素早く並んで列車が来て車内に入り素早く着席。おかげで全員座れた。そして一気に疲れが襲ってきた。移動して移動して吐いて移動して…疲れた。「小倉前に起こしてね」と友達に頼んでおいて私は眠りに就いた。

小倉到着前、私は友達に起こしてもらった。荷物は広げていなかった所以小倉のホームに入ったところでデッキへ移動しドアが開くのを待つ。そして小倉で下車し、集合場所のバスターミナルに行かなければならないのだが――

3/31（日）→4/1（月）

JR 小倉駅新幹線口停留所 18:40～(阪九フェリー送迎バス)～新門司港 FT 18:55

新門司港 FT 20:00～(阪九フェリー)～神戸港 FT 8:30

神戸港 FT 8:40頃～(阪九フェリー送迎バス)～アイランド北口駅 8:50

アイランド北口 8:58～(普通 六甲ライナー 住吉行)～住吉 9:05

## 5. さらば九州よ

これはしまった。間違えて反対側の出口に出てしまった。「やば！」と一心不乱に新幹線口へ走る走る走る。

なんとか集合場所にたどり着いたのは18時32分ぐらいで少し遅刻してしまった。自分で計画した旅行なのになんという失態。反省しつつ、上記のとおり、送迎バスに乗り込んだ。

バスは門司駅を経由して門司港フェリーターミナルに着いた。2階の待合室に上がり、顧問からチケットを受け取り、乗船開始の時間を待つ。ここで顧問に自分が吐いてしまったことを話したら「ほかにも吐いた人が(5人程)いるよ」とのこと。…。えっ。というと吐いた原因は皆で食べたもの、ということか…?とすると…、名門大洋フェリーしかないな。調べてみたら以前に名門大洋フェリーは食中毒を起こしていたらしい。ちょっと笑えないぞこれ。



## 1. 立場上の中3

今回乗るのはフェリーの2等室。この部屋は前に説明した通りの部屋だ。とにかく疲れた私は大浴場に直行。温かい風呂に浸かりながら今日一日を振り返っているところで気付いたら先輩や後輩達がいた。いろいろ話を聞いていると中1の一人がまだ気持ち悪いようだ。辛さはよく分かる。吐けばそこまでなのだが、それまでが辛い。

風呂を上がった。だが食欲が無い。実は昼食もまともに食べていないのだ。だから今日は早めに寝付くことにした。

. . .

さて、おはようございます。中3になりました！！実感がありません！！まだ私は小学9年生の気がしてなりません！！ということで今日は4月1日である。荷造りを終えて下船する。本州に帰ってきたのだ。送迎バスで最寄りの駅へ。と、ここで新中2の後輩がまだ気持ち悪いのが解消されないため、顧問に新大阪まで連れられて先に帰ったとのこと。残念だろうがここは体調が一番だ。早く治して欲しい。

## 2. 帰るぜ、関東

3/31 (日) → 4/1 (月)

↓ここから自由行動↓

住吉 9:15～(普通 山陽本線 京都行)～大阪 9:30

大阪 11:00～(新快速 東海道本線 長浜行 **\*遅れ**)～米原 12:23

↑ここまで自由行動↑

米原 12:30～(普通 東海道本線 大垣行)～大垣 13:02

大垣 13:11～(新快速 東海道本線 豊橋行)～豊橋 14:37

豊橋 14:41～(普通 東海道本線 興津行)～静岡 16:40

静岡 17:00～(普通 東海道本線 熱海行)～熱海 18:14

熱海 18:23～(普通 東海道本線 東京行)～小田原 18:45

小田原 19:15～(特急 はこね 44号 新宿行)～新宿 20:34

～解散～

ここからはただ東海道本線を上って行くだけなので小田原まで要約して説明しようと思う。六甲ライナーで私達は住吉に出た後、山陽本線で大阪へ。ここで軽く昼飯を済まして、とここで乗る予定だった列車に遅れが発生。このままだと米原(滋賀県)で乗り換える列車に間に合わないが、米原で接続してくれたので何とか乗車したが、新中2部員1グループがいないことが発覚。顧問がその場に残り、部員たちは先に東海道本線で米原から大垣で乗り換え豊橋に到着。ここで先ほどのような中2と顧問と合流。豊橋から静岡へ行き、いい加減腹が減った私はコンビニでおにぎり2つを購入。次に乗る列車に乗り込んで、熱海で乗り換えてJR東日本圏内に入り、小田原で下車した。



### 3. 小田急ロマンスカー ～Vault Super Express～

いつもの鉄研旅行だったらこのまま東海道本線で東京に出て解散する。だがそれだとなにか物寂しい。そこで小田原から小田急ロマンスカーに乗って新宿に出て、そこで解散することにした。因みにこれに似た行程は前例としてはあった。みなさんは「ロマンスカー」と言われると何が浮かぶだろうか。箱根、白い、カッコいい、展望席がある、といったところだろうか。私はというと、実はコーヒーが浮かぶ。中一夏休みの時にあった鉄研入門旅行の際、新宿から箱根湯本まで乗車したとき、ビュッフェでアイスコーヒーを頼んだのだが、その時のコーヒーの味が忘れられなくて、今もロマンスカーの第一印象についている。駐車場の表紙が小田急なのは実はそこから来ている、ということは特にないんだが(気分です、はい)。

今回乗るロマンスカーは「VSE」と呼ばれている小田急 50000 形のはこね 44 号だ。「VSE」はロマンスカーの代表格とも言われている車両である。室内は、住空間の様に落ち着いた雰囲気、リビングルームのような明るいくつろぎ感のある移動空間となることを図った。小田急のフラッグシップモデルとして位置づけられ箱根方面への特急ロマンスカーに使用されていた 10000 形「HiSE」の置き換えとともに、箱根の魅力向上と活性化、更には小田急ロマンスカーブランドの復権を目的として登場した。因みに「VSE」は Vault Super Express の略称である。

定刻通りに VSE が入線してきた。車内に入り、席に着く。そしてなんだかホッ、とする。説明通り、住空間の様である。

列車は発車し、新宿へ向かっていく。ビュッフェでコーヒーを頼み、席で待っていると数分で運ばれてきた。ロマンスカー特製コーヒーである。一口ごくり。あー身に染みるう。ロマンスカーに乗ったらぜひこのコーヒーを飲んでみて下さい。

列車はどんどん進んでいき、この駐車場の写真を撮った下北沢を通過し、新宿に着いた。全員で改札を抜け、その場で解散。皆さんお疲れ様でした。

私はその後自分の青春 18 きっぷを使って家の最寄りの埼京線某駅で下車し、帰宅の途に就いた。



特急 はこね 44 号 新宿行

## ■終章 ～振り返ってみれば～

さて、いかがだったでしょうか。最後の方は乱暴な文章になってすみませんでした。内容は自嘲気味かつ面白くしようと思いながら考えていたところ、章ごとに写真を使ってみることにしました。正直、「振り返ってみれば」とありますが、あんな黒歴史思い出したくありません。これからは封印しようと思います。

では、また次の高学祭の鉄研ブースに来てくれることを祈りつつ、ここで筆をおきたいと思います。

そういえば、どこが倍返しだったんでしょうか、半沢さん。



お土産(この旅行で手に入れた交通系 IC カードと、可愛い可愛いゆるゆりの本)

---

### 参考文献：

フリー百科事典ウィキペディア

乗換案内・時刻表・運行情報サービス ジョルダン

名門大洋フェリー

JR 九州旅客鉄道株式会社

阪九フェリー

小田急電鉄

[ja.wikipedia.org](http://ja.wikipedia.org)

[www.jorudan.co.jp](http://www.jorudan.co.jp)

[www.cityline.co.jp](http://www.cityline.co.jp)

[www.jrkyushu.co.jp](http://www.jrkyushu.co.jp)

[www.han9f.co.jp](http://www.han9f.co.jp)

[www.odakyu.jp](http://www.odakyu.jp)